

平成23年3月11日 東日本大震災

浦安では**何**が起きたか**聞**きました

東日本大震災では液状化の被害があった浦安市。実際にはどのような状況だったのかを知りたいと思い、被害を経験した市内在住の小林恭一さんにお話を伺いました。小林さんは、震災当時は大学で防災学を教えており、当時も今も入船中央エステート自治会の防災部長をされています。

Q 当時の液状化の被害にはどのようなものでしたか？

浦安の南側は紛れもない被災地で、電柱が傾き、水や砂が噴き出していました。マンションなどの集合住宅は深い杭や液状化対策のおかげで傾いているものはあまりありませんでしたが、戸建て住宅は多かれ少なかれ傾いていました。

Q 当時、小林さんたちはどのような対応をとったのですか？

翌日、管理組合と自治会で対策本部を作ったのですが、さまざまな意見があってまとまらないので、ホワイトボードに意見を書き出して整理し、みんなで優先順位と担当を決めて行動に移りました。

Q 対処すべきことを一つ一つまとめていったんですね。ほかにどのようなことをしたのでしょうか

液状化の影響で、団地内に砂が噴き出していたんですが、私たちはすぐにホームセンターに行き、土のう袋をどのくらい必要か分からず、初めは1000枚買ったんですが、最終的に1万枚使うことになりました。



小林さんに聞いた

災害時のために
用意するといひもの

- ▶災害用簡易便袋（1ヶ月分以上）……一番大事
- ▶水……2Lのペットボトルに水道水を入れ、空気が入らないようにふたをする。暗いところに置いて保管
- ▶米・乾麺・缶詰など……常温で長期保存できる食材を安い時に多めに買って置き、古いものから消費して入れ替える
- ▶カセットコンロ、カセットボンベ20本以上……ガスや電気が来なくても調理できる

トイレ、水、食料の確保が大切。備蓄の目安は3日分と言われているけれど、1週間分でも足りないくらい

内陸直下型地震(レベル2)による
液状化危険度分布図

(平成23年度浦安市液状化対策技術検討調査)

地盤調査結果を基に浦安地域の地盤をモデル化した上で、内陸直下地震による「地震動や液状化の影響の程度」を計算したものです。

- 液状化の影響が大きい
- 液状化の影響が小さい

インタビューを終えて

小林さんのインタビューを通して、学校の授業だけでは知ることのできない当時のリアルな状況を詳しく知ることができました。災害時に向けて防災グッズなどを早めに備えることで、自分が被災した際に役立つと改めて感じました。今後起きると言われている首都直下地震に備えて、自分や家族など周りの人を守るためにも、今自分ができることを探したり、防災知識や災害に関する知識を身につけようと思いました。

小林さんのお話を聞いて、当時浦安がどのような状況だったか鮮明にイメージすることができました。ふだんから災害に備えること、災害発生直後の迅速な行動で、災害に遭っても被害を軽減できる。また、周囲の人たちとのコミュニケーションを大切にし、いざという時にはお互いに助け合える関係を築くことが大切だと改めて感じました。これから起こるであろう首都直下地震に備えて、食料品や人との関係を大切にしていきたいです。

私は小林さんに取材をし話を聞いて、当時の状況を鮮明に思い浮かべることができました。これからは、今後起こると言われている首都直下地震に備えて、食料や飲み物を備蓄し、近所の人たちとのコミュニケーションを大切にしていきたいと思いました。